

1年間の棚卸(たなおろし)をしてみよう

第10期『耕人塾』も残すところ2回となりました。今年度はコロナ禍のために中止せざるを得なかった活動もありましたが、教学委員の工夫と塾生の意欲的な参加のお陰で充実した活動ができました。第9期でも紹介しましたが、福沢諭吉の「学問のすゝめ」に「心事の棚卸(たなおろし、商品の在庫管理や評価のこと、転じて実践したことの自己評価)」という項があります。私の座右の銘の一つでもありますので、その意識したものを紹介します。

人が生きている様子を見ていると、心で思っている以上に案外悪いことをし、心で思っている以上に案外愚かなことをし、心で計画しているよりも案外成功しないものである。また、人生を設計している人でも「生涯の内、または十年の内にこれを成す」という人は多いが「三年の内、一年の内」という人はやや少なく、「一月の内、今日のうちに」という人はまれである。期限を長く決めて、今やるべきことをやらないで事業に成功した人を私は知らない。少なくとも一年または一か月の終わりに、何を成して何ができなかったのかを棚卸する必要がある。「生まれてから今日に至るまで自分は何事を成してきたか、今は何事ができるか、今後何事をすべきか」と、自らわが身を点検することが大切である。

「心事の棚卸」に倣い、私の1年間を振り返って『耕人塾』実践事項「あいさつ・清掃・ゴミ拾い」についての棚卸をしてみたいと思います。

①「あいさつ」：家庭内でも隣近所でもできるだけ自分から挨拶するように心がけていますが、場に応じたあいさつができなかったり、相手に伝わらなかったりしたことがあると反省しています。自己評価は65点です。場にふさわしい、相手に伝わるあいさつを思案中です。

②「清掃」：家での役割分担はトイレ掃除ですが、その他に妻が仕事の時は掃除をかけ食器を洗うこともあります。昨年よりも自分から進んで、さりげなくやるようになったので一歩前進し、自己評価は60点です。来年度は感謝の心が表れるような清掃の仕方を考えたいと思います。

③「ゴミ拾い」：ここ数年、1万個を目標に朝のゴミ拾い散歩をしています。散歩コースを延ばしたり変えたりした結果、11/14で15,760個なり目標を超えることができました。自己評価は95点です。来年はもっと爽やかに、もっと楽しくゴミ拾いをする方法を工夫したいと思います。

読書や剣道・彫刻なども目標を立てて実践中ですが、達成率70%程度です。残された1か月で80%に近付けるよう頑張りたいと思っています。コンセプトは「さりげなく、楽しく」です。

棚卸をしてみると福沢諭吉が言っているように、案外達成していないことに気付かされます。

「今は何事ができるか、今後何事をすべきか」諭吉の言葉をかみしめてみませんか。

「いまを生きよ いまを生ききれ」(致知12月号から)

田坂広志氏(多摩大学大学院名誉教授・田坂塾塾長)の言葉を紹介します。

「絶望の時、『過去は無い。未来も無い。有るのは、永遠に続く、いまだけだ。いまを生きよ！いまを生ききれ！』という禅師の言葉が胸に突き刺さってきました。そして、このとき、私は、一つの覚悟を心に定めたのです。『ああ、この病で、明日死のうが、明後日死のうが、もう構わない！それが天の定めなら仕方がない。しかし、過去を悔いること、未来を憂うことで、今日というかけがえのない一日を失うことは、絶対にしない！今日という一日を、精一杯生ききろう！』そして、そう覚悟を定めた瞬間、病を超えたのです。もとより、奇跡のように病が治ったわけではない。しかし、心が病に囚われなくなったのです。」

私たちは日々の生活の中でうまくいかなかったり悩んだりすることがありますが、そのような壁の中に自分の生き方の「根っこ」があるのかもしれない。いまを大切に生きたいですね。